

編集後記

同窓会誌も第2号の発刊となりました。ですが、まだまだ軌道に乗ったとは言い難い状態です。毎年のように7月は原稿集めにあちこち奔走して、何とか間に合わせているいる気がします。それが年中行事のようになっている有様です。加えて、今年は災害の多い年でもありました。

- 6月18日 高槻市付近を震源とする大阪北部地震。最大震度6弱。
- 7月6日 西日本豪雨により倉敷市真備町浸水、広島市矢野東で土砂崩れ。
- 7月末 猛暑。7月23日埼玉県熊谷で国内観測史上最高記録を更新する41.1度。京都市内の気温は7月20日に7日連続で38度を超え、観測史上最長の連続日数を更新。

本当に、異常ささえ感じる日々でした。皆さんはこの夏を大過なく過ごされましたか？まだまだ暑さは厳しいですが。

さて、同窓会誌に話を戻します。今回も三木、松本の両氏には連載の続きを書いてもらっています。紛争当時の大学の様子が、今の状態からは想像できないような沸騰した状態だったことがうかがえます。私は紛争の最盛期にはまだ大学に入学していませんでしたが、紛争の最後のなごりに居合わせた世代ではあります。何しろ吉田構内はストライキ中だったので。それ以前の状態がどんなであったのか、興味深く読ませていただきました。

その他2017年度の総会のとときの縁で何人かの人に文章を寄せてもらいました。卒業式、修了式の様子も専攻長、専攻主任の挨拶から雰囲気伝わるとおもいます。そして卒業生、修了生の何人かに文章を依頼しました。寄せられた文章からは、それぞれの思いが伝わって来て、同窓会誌というものがあってよかったと思います。書いてくださった方に感謝いたします。

河野氏の記事は、確率という言葉の由来について調べたもので、私は専門が確率論なので興味深く読ませてもらいましたが、皆さんにも興味もをもって頂ければよいのですが。

この同窓会誌を、これからさらに充実したものにしていきたいと思っています。会員皆様のご協力を今後ともよろしく願いいたします。 (編集長 重川 一郎)